

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			法定基準より2倍のスペースがある。次年度はふくふく統合により利用者が増えるため、パーティションなどで広いスペースを有効に使い、パーソナルスペースを確保したい。
	2	職員の配置数は適切であるか	○			今年度中に事業所全職員が行動援護従事者研修を終え、強度行動障害児等への支援が適切に行えるよう体制を整えた。
	3	子どもの失踪や部外者の勝手な侵入が生じないような対策をとっているか	○			訪問者はモニターで確認してから対応が定着した。玄関の3重ロックの徹底もできている。次年度は不審者対応に関する安全研修を行いたい。
	4	子どもにとって危険が生じないように、設備や備品等に破損や故障がないか		○		利用児童の利用頻度の高い玩具などは破損しやすいので、破設備や備品等だけでなく、玩具や遊具の点検を定期的実施する。
適切な支援の提供	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、改善につなげているか	○			昨年度のアンケート調査にて保護者交流について「どちらでもない」との回答結果も参考にして、コロナ禍で中断していた地域交流(福祉まつり)の場を通して交流機会を設けた。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			ホームページで公開。R6年度はwam-netを活用し、より広く公表する。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか		○		前回受審から3年経過となる令和6年度は受審を予定する。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			積極的に放課後連や調布市人材センターの各種研修機会を活用し、積極的に参加した。令和5年度は資格取得支援制度を新たに導入した。
	9	日々のアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、個別支援計画を作成しているか	○			個別および活動記録、ミーティングなどで日々アセスメントし、個別支援計画にも生かしている。クラウドソフトを活用し個別支援計画の共有をしているが、日々の支援に十分生かすため切れていない面があり、活用方法の見直しを早急に行う必要がある。
	10	保護者と半年に1回以上は面談し、個別支援計画を半年に1回は見直し・作成しているか	○			半年に1回、個別面談月間を設けて、確実に見直し・作成が行えるようにしている。
	11	基礎となる活動プログラムの立案(行事や月間予定など)をチームで行っているか	○			月に2回開催の事業所会議にて定期的に行っている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○			連日利用する利用者が同じプログラムが続かないよう配慮している。特に、季節行事に関するプログラムについてはチームで丁寧に話し合い、留意している。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、活動内容を工夫して提供しているか	○			平日は学校終了後であることから疲労が蓄積しないようプログラムを組んでいる。一方、長期休暇や休日は時間が確保できるからこそ実施できる郊外活動など、特別プログラムを取り入れている。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる活動を提供しているか	○			特に季節の変わり目や進学などの環境変化や学校行事などにも配慮しながら活動を提供している。また、利用児童の特性や発達段階に合わせて、個別または集団活動を組み合わせる活動を提供した。

	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○			日々の事前ミーティングは常勤職員および非常勤職員の出勤状況に合わせて必ず実施している。活動プログラムは各自の画像で共有するなど適時確認できるようにしている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○			毎日の振り返りを全体、個別に行い、次の支援に生かすようにしている。日々変化のある伝達事項の共有を確実にしたい。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○			日々の記録を支援やモニタリング、面談、個別支援計画への反映に役立てているが、利用者によって記録量に差が生じている。業務改善としても記録のIT化を進めたい。
	18	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせで支援を行っているか	○			ガイドラインの読み合わせを定期的に行うことで、活動に生かしたい。
関係機関や保護者との連携や説明等	19	必要時、障害児相談支援事業所の担当者と連携（担当者会議や相談等）しているか	○			担当者会議の機会は少ないが、必要時は適宜連携している。相談支援事業所からのモニタリングの依頼についても適宜受けている。
	20	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	○			保護者の希望や学校の状況に合わせて情報や連絡調整を行っている。連絡会が開催される学校に限られているので、直接連携が進んでいない学校もある。
	21	学校行事の見学等、学校での子どもの様子を把握するよう努めているか		○		コロナ感染症対策として学校公開の機会がないが、機会があればぜひ参加したい。
	22	学校入学前や卒業後の諸機関と、必要に応じて連絡をとりあっているか	○			入学者がいなかったので入学前の連絡はしていない。卒業者については、卒業後の作業所への引継ぎを直接出向いて、また文書などで実施している。
	23	障害のある子どもの放課後活動に関する連絡会への参加や地域の事業所との会議に出席して、情報共有に努めているか	○			地域の作業所連絡会、児童部会、東京都や国の放課後連に加入し、定例会や研修などに積極的に参加している。
	24	地域の方との交流や外出活動などを通して、障害のない子どもと活動する機会があるか	○			通信の配布や季節行事・地域行事を通して、地域との交流機会を設けている。また、障害のない子供たちとの直接交流の機会はないが、公園遊びや外出活動などで間接的な交流機会はある。
	25	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○			送迎時やサービス提供記録・面談・連絡帳など複数の方法で共有機会をもっている。
	26	入会時や変更時、運営規程、活動の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○			新年度ごとに、また変更やお知らせ事項等が生じた時には丁寧な内容を心がけ、メールや文書で周知している。

	27	保護者からの相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○		送迎の際や連絡帳・メールなどで、定期面談以外でも相談に応じている。
	28	地域行事への参加を通じ、また保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○		コロナ禍で未開催であった地域行事「ふくしまつり」の参加や保護者会開催により、保護者交流の場を設けたが、参加者が年々減少している。保護者間交流や連携のニーズを改めて把握したい。
	29	苦情があった場合に、懇切に迅速かつ丁寧に対応し、改善策を速やかに伝えているか	○		改善策をチームで共有したうえで伝えた。
	30	定期的に会報の発行やホームページにて、活動の様子や情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○		通信は定期的な発行を行い、地域にも発信する機会としている。活動の様子をタイムリーに伝えられるブログ掲載の頻度が全体的に少なく、事業所情報も最新のものでない部分があるので、適時修正する。
	31	個人情報に十分注意しているか		○	書類の入れ間違い事例が生じたため、十分留意したい。
	32	地域行事への参加や事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	○		4年ぶりに「ふくしまつり」に参加し、地域との交流機会の場を得ることができた。また、ハロウィン行事等の季節行事やにこにこ通信の配布等で地域住民との交流機会を継続している。
非常時等の対応	33	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	○		すべてのマニュアルを策定しているが、BCP等に重複するため、早急に見直しが必要。防犯マニュアルについて、保護者への周知をどの程度行うか課題。
	34	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○		月次の避難訓練(地震編・火災編)を計画し、実施している。保護者様協力の基、5月に第1次避難場所での引き取り訓練を実施。
	35	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○		今年度は感染症予防により他事業所との合同研修に参加できなかったが、行政開催の研修参加や法人および事業所研修を実施。「小さな出来事」を事前にアンケート調査・集計し、事例検討等を行った。
	36	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○		食物アレルギーについては一覧にして掲示。またエビペンが必要な利用者について外出時の持ち出しなどを支援前に確認している。
	37	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○		当日中の記録を徹底することで記録のロスを最小限にする。

●今後に向けた主な改善目標の総括

①コロナ禍も落ち着き、活動制限の緩和に伴い、それまで縮小していた活動を広げ、利用児童の希望や特性に合わせた従来の幅広い活動内容を実施することができた。令和6年度は利用者数も増え、発達段階も幅広いので、個別に合わせたプログラムや支援ができるよう、引き続きチームで丁寧に検討する。

②記録など業務改善や利用者サービスを目的にICT化をすすめたかったが、十分に活用できないまま年度を終えることとなった。令和6年度は早期に着手し、業務改善や利用者サービスの充実につなげたい

③ふくしまつりなど地域行事の再開、直接来所による面談、対面での卒業後の引継ぎ、来所型の保護者会の開催など、対面実施できる機会が増え、コミュニケーション機会の増加や地域交流、保護者との共有や交流場面が増えた。一方で、コロナ禍ですすんだオンラインの活用が効果的と感じることもあったので、有効な方法を適宜選択し、活用してい